

☆日々の活動を通じて育成される幅広い資質・能力について多面的に評価
 →学習評価の結果や把握した基礎学力の定着度等の生徒への指導改善や教材研究等への反映
 →大学等への進学や就職等における個人の学習履歴・学習成果の証明に活用
 →高等学校における学習と大学における学習等との接続のために活用

高等学校段階の教育・評価の充実から、進学・就職時における多面的・総合的な評価の推進、その後の教育活動・人材育成までを視野に入れた評価の仕組みを構築

⑤進学後の活用の在り方

人材育成

大学

初年次教育の充実など大学教育への円滑な接続

個別入学者選抜

多面的・総合的な評価

専門学校

入学者選考

多面的・総合的な評価

就職

採用試験

多面的・総合的な評価

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)

調査書、その他の提出書類

調査書、その他の提出書類

調査書、その他の提出書類

④選抜段階での活用の在り方

進路実現のための個人の学習履歴・学習成果の証明に活用

指導要録

学習履歴・成果の記録

③指導要録の在り方

高校生が取り組む様々な活動

ボランティア活動 生徒会活動 運動・文化部活動 各種大会など
 留学 就業体験

選択科目

専門教科・科目

総合的な学習の時間

必修教科・科目

義務教育段階の学習内容の学び直し

アクティブ・ラーニングの視点からの学習の充実

日々の活動を通じた幅広い資質・能力の多面的な評価

指導改善

多様な測定ツール

- ・英検、TOEFL等の民間検定
- ・農業、工業、商業等の検定試験
- ・高等学校基礎学力テスト(仮称)

①学習評価の在り方

②多様な活動の評価の在り方

評価の充実のための基盤

⑥基盤整備の在り方

多面的な評価検討ワーキンググループでの検討状況(途中報告)

○多様な学習活動や学習成果を適切に評価する仕組みの構築

(検討の方向性)

- ・ 初等中等教育段階から進学・就職段階まで、発達段階に応じて、多様な学習活動・学習成果の評価が継続的に行われ、それぞれの段階で適切に活用されるように、高等学校段階における評価、大学入学者選抜等における評価等について改善していくためにはどのような方策が必要か。

○高等学校段階における評価の在り方

- ①学習評価の在り方の見直し
- ②多様な活動の評価の在り方
- ③指導要録の在り方

(検討の方向性)

- ・ 高等学校において、指導と評価の一体化、目標に準拠した観点別の学習評価が現実機能していくためにどのような方策が考えられるか。
- ・ 生徒の思考力・判断力・表現力や学習意欲等を評価していくために、生徒が課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学習に取り組む場面を学習の中で意識的に設定していくなど、学習・指導方法を改善していくことが必要ではないか。
- ・ 日々の学習成果を多面的に評価していくために、高等学校基礎学力テスト(仮称)や既存の校長会・民間団体の実施する検定試験などの多様な評価ツールの特性を踏まえながら、積極的に活用していくための具体的な手立てをどのように考えるべきか。
- ・ 授業以外の活動、学校外の活動の成果をどのように評価し、指導改善につなげていくかを整理しておくべきではないか。
- ・ 各種資格試験や検定試験の結果について、活用を念頭に置きながら、学校での学習内容とどのように結びついているかが見えるようにしていくべきではないか。検定試験について、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等を評価することができるようにしていくことも検討すべきではないか。

- ・学校内外における多面的な評価を推進していくために、上記論点の整理をもとに、各学校や教育委員会等の取組を促進していくことや、指導要録の様式の見直しや記載事項の整理を行っていくことが必要ではないか。
- ・指導要録の記載事項の信頼性・妥当性を高めるための手法の開発等を行っていくべきではないか。

【主な御意見】

①「学習評価の在り方」について

- ・定期考査の結果を基に評価すればよいという意識を変えることが必要。評価とは10段でランクつけすることではない。
- ・アクティブ・ラーニングの視点から、学習の成果をどのような方法で把握し、評価していくかがこれから重要。
- ・世界の傾向としては「活用」の評価が中心になりつつあり、今後は更に「探究」の評価に取り組むことが重要。
- ・観点別の評価の欄がある指導要録が示されること、高校での活動の多様化に対応できること、大学入学者選抜等で観点別評価がどのように使われるかが見えてくることが、観点別評価が高校で普及するかどうかの鍵ではないか。

②「多様な活動の評価の在り方」について

- ・各資格試験が高校の学習とどうつながっているのかが分からないので、評価に使づらいという声がある。
- ・各種検定では、資質・能力のうち「知識・技能」が中心のものが多いが、全国統一的な指標として活用しやすいものではある。多面的な評価を行う観点から改善、活用ができないか。
- ・高等学校を卒業する段階でどのような力がついていることが必要で、その時に様々な多面的評価の指標をどうたてていくかを考える必要がある。

③「指導要録の在り方」について

- ・指導要録は、指導の改善に用いるものであるという意識を改めて確認する必要がある。
- ・最終的に指導要録へ記載する前段階で、各教員は多面的に生徒の姿を見ているが、この状況が指導要録の評定の数値だけでは見えない。見てもらいたい、表現したい生徒の姿を記載していける指導要録が必要。
- ・定性的な部分を加えた指導要録ができてくると、生徒がどちらの方向性に伸びしろを持っていて、どの部分を大学で引き継いでいくのかという判断が可能となる。

○大学入学者選抜等における評価の在り方

④選抜段階での活用の在り方

⑤進学後の活用の在り方

(検討の方向性)

- ・大学入学者選抜やその後の大学教育のために大学が何を求めているかという観点も踏まえつつ、生徒の多様な学習活動・学習成果を適切に評価できるよう、調査書の改善や出願時提出書類の取扱いを検討していくべきではないか。
特に、以下のような点について具体的に検討してはどうか。
 - ・ 評定平均値の在り方を含めた見直し
 - ・ 高等学校が記載する調査書とは別に、志願者本人が意欲的に取り組んだ活動や課題研究等を記載する活動報告書の取扱い
- ・ 調査書の記載事項について、信頼性・妥当性を高めていくためにどのような工夫が考えられるか。
- ・ 多面的な評価の観点から、例えば、学力検査の対象となることの少ない芸術や家庭科、体育、総合的な学習の時間、特別活動等について、優れた学習成果を上げた者については調査書で明示するなどより積極的に評価することについても検討してはどうか。
- ・ 高等学校における学習評価は学習指導要録に基づき各学校が設定した目標を踏まえて行うものであることを踏まえ、各高等学校においても、高校教育を通じてどのような資質・能力を育成しようとしているのかを明確にするとともに、それに対してどのように評価を行ってきたかを、対外的に明らかにすることが必要ではないか。

【主な御意見】

④「選抜段階での活用の在り方」について

(調査書の改善)

- ・ 調査書については、現状では評定平均をAO入試や推薦入試の出願要件とすることや面接時の話題として使うなどの活用にとどまっている。大学は何を求めているかという観点から記載内容を変えていかないと、様式を変更しても結局使われない。
- ・ 高等学校の評定は学校ごとに基準が異なるのに、それを考慮せず「評定平均」として選抜で活用することに矛盾はないか。
- ・ 評定平均の高い生徒は学習習慣の定着や自己管理能力については評価できるのではないか。
- ・ 出願書類として有効に活用できるよう調査書にある「指導上参考となる諸事項」や「総合的な学習の時間」に関する内容について、今よりも詳細に記載できるよう工

夫を行うべき。

- ・特定の分野で優れた学習成果を上げたものを評価することも重要だが、あわせて、共通に求められる基礎学力を担保することが必要。

(出願時提出資料)

- ・部活動や資格・検定等を本人から申告させることにより、情報量が増え、多面的・総合的評価の促進に寄与する。時間をかけて大学志望理由を本人が考えることも教育上意義がある。
- ・活動報告書(自己推薦書)は、活動状況を知る良い材料。予め評価の観点を示して、それがわかるものを出してもらするなど、大学側が求めている評価の観点を志願者に伝えることが重要。

⑤「進学後の活用の在り方」について

- ・高校が作成する書類(調査書)と本人が作成する書類(活動報告書等)を切り分けて活用方法を考えてはどうか。
- ・生徒の負の側面が書かれないと、進学先の大学では指導に生かせない。負の側面を書くと損、という意識を高校側でも払拭しなければいけない。
- ・高等学校での学習状況を踏まえた初年次教育を行うことなどについて、カリキュラム・ポリシーで予め確認することが重要。

○就職時における評価活用の在り方

④選抜段階での活用の在り方

(検討の方向性)

- ・コミュニケーション能力、主体性等企業が採用時に求める情報が伝えられるように、高校における評価方法や指導要録・調査書の様式等を見直していく必要があるのではないか。

【主な御意見】

- ・企業としては、コミュニケーション能力、主体性、協調性、チャレンジ精神などを求めている。観点別評価などにより、こうした企業が求める情報と指導要録の記載事項が関連付けられるようにすべきではないか。
- ・業種や事業規模等によって求める資質・能力も変わっていくため、高校時代の学習履歴・成果を就職に活用していくには、情報のマッチングの観点が必要。

○評価の充実のための基盤整備

⑥基盤整備の在り方

(検討の方向性)

- ・ 多面的な評価を促進するためには、書類の電子化を促進するとともに、日々の教育活動の記録を蓄積し、必要に応じて指導改善や入学者選抜等に活用できるようにデータベースの構築を検討していく必要があるのではないか。

【主な御意見】

- ・ 高校における様々な活動の成果について、指導要録の様式に落としこむ過程で、情報の多くが消えてしまっている。電子化を推進することにより、日常的な教育活動を通じて何を学び、どんな成果を残したのかをポートフォリオ的に蓄積し、様々な場面で必要な情報を適時活用できるようにすることを検討すべき。

第 8 回高大接続システム改革会議における評価WG報告への主な御意見

1. 学習評価の在り方に関する御意見

- 高校が多様化しているのは、学力の面だけではなく、内容も多様化。学校の個性をもとに各校に評価をさせていくのか、学習指導要領を基準とした枠にはめていくのか。十分に議論が必要。
- 信頼性、妥当性を高校においていかに高めていただくかが重要。生徒の学校での位置を相対化して見ることができると助かる。
- 総合的な学習や課題研究などをどう評価し、引き継いでいくか。どんな授業をして、それをどう評価していくかの方法を示していくことが重要。パフォーマンス評価がないと生徒のやる気を引き出せない。
- 観点を学力の 3 要素で整理するとのことだが、コンピテンシーを 3 要素に結びつけると使いやすい。観点別評価を実施した時に、大学でそれを見てくれるだろうか、徒労に終わらないかという疑念がある。観点別評価を信頼してくれるか、3 要素で学力を見てくれるか。

2. 多様な活動の評価の在り方に関する御意見

- 目標準拠の評価とは学習してきたことの評価で、この生徒にはこんないところがあるという評価とは別。前者と後者は分けて整理する必要がある。
- 生徒が将来どうなりたいのかの視点を組み入れてほしい。結果を評価するだけでは生徒の意欲を喚起するものにはならない。生徒の目標から必要な指導していくことをお願いしたい。

3. 指導要録の在り方に関する御意見

- 高校卒業時の質保証をどのように図るかが重要で、そういう指導要録を実現していくべき。
- 今の指導要録は不十分。子供の頑張りは数値化できない。小学校では負担を軽減するために電子化が進んでいる。日常の状況を随時書き込むようにしていけば、手間はかからない。

4. 選抜段階での活用の在り方に関する御意見

(調査書)

- 主体的に学習に取り組む態度を調査書等にどう書き込んでいくか。生徒に志望理由を書かせることは大事。

(出願時提出書類)

- 就職時のエントリーシートからは学校ではとらえていなかった面がみられることもあるので、大学入試でも同じように使っていくことが考えられる。
- エントリーシートは、受験の際に一気に仕上げるのではなく、日ごろから積み上げておくことが大事。
- 活動報告書等で経験を記載させたとしても、経験が能力になっているとは限らない。確認する作業が必要。

5. 入学後の活用の在り方に関する御意見

- 選抜に使うということではなく、高校時代の成果・履歴が次の段階に引き継がれることが重要。
- 東京都立の高校入試では、全生徒にPRカードを作成してもらっている。選抜には使っていないが、入学後の指導に役立つ。
- 自己肯定感が学校段階を上がった時にもつながっていくようにしてほしい。高校では生徒に将来ビジョンを書かせておいてほしい。書かせることで意識が深まる。

6. 基盤整備の在り方に関する御意見

- 書類の電子化が実現すると、評価結果を大学にも引き継ぎやすい。大きな大学だと調査書の処理は大変であり、効率化が図られる。